

重点目標	ふるさと教育・キャリア教育を基盤とする学力向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふなっ子の学習習慣」として取り組んできた、(良い姿勢・話を聞く・家庭学習)などの基本的な学習習慣については、個人差は見られるが概ね各学年とも身に付いてきている。 ・令和4年12月実施の県学習状況調査では、現6年生において、3教科(国語科、社会科、算数科)はほぼ県平均と同レベルであるが、理科は県平均を下回っている。また、現5年生は、3教科(国語科、算数科、理科)とも県平均を下回っている。 ・令和5年度4月実施の全国学力状況調査(6年生)結果では、国語は県平均と同程度、全国平均は上回っていた。算数は県・国平均を上回る結果であった。
具体的な 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な学習習慣の確立 2 基礎・基本の確実な定着 3 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり 4 ICT機器を効果的に活用した授業改善 <p style="text-align: right;">アンケート平均目標値：児童90%、保護者80%</p>
目標達成の ための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1-① 学習の約束の提示 <ol style="list-style-type: none"> ② 子どもの自己評価カードの活用(重点項目の設定) ③ 学校での学習とリンクした家庭学習の工夫(ノート展) 2-① 基礎・基本の定着に向けた支援の工夫 <ol style="list-style-type: none"> ② 全員合格を目指したチャレンジテストの実施(国語・算数) ③ 一人一人が「分かる」「できる」と実感できる指導の工夫 3-① 児童自身の課題の理解と、実感を伴った振り返りの場面の設定 <ol style="list-style-type: none"> ② 身に付けさせたい力を明確にした授業づくり ③ 本に親しむ読書指導の推進 ④ 地域人材を活用した、総合的な学習(講話、体験活動)の実施 4-① ICT研修の実施とICT活用のねらいの明確化 <ol style="list-style-type: none"> ② 校内外におけるタブレットの活用

重点目標	明るく、思いやりのある子どもの育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」はしてはいけないと認識しつつ、友達が傷つく言葉を発してしまう場面は依然多い。その場その場で、人の気持ちを考えた行動ができるよう繰り返し指導していく必要がある ・あいさつの大切さは多くの子どもが理解しているが、行動に移せない子どもがいる。気持ちのよい挨拶ができるよう、引き続き「あいさつ運動」などを展開していく必要がある ・休み時間には、男女を問わず、外で遊び、元気に他の学年の子どもたちとも交流している。 ・学級の係活動や委員会活動の役割を十分に果たし、学校行事ではそれぞれの学年に応じた役割に前向きに取り組んでいる。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 互いに認め合い思いやりあふれる学級づくり 2 健康で過ごす安全・安心な学校づくり 3 いじめ、不登校の未然防止 <p style="text-align: center;">アンケート平均目標値：児童90%、保護者80%</p>
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1-① 挨拶の励行と基本的な生活習慣の確立 <ol style="list-style-type: none"> ② 学級活動や道徳科、生活科・総合的な学習の時間等での学び合いを通じた「居場所づくり」、「絆作り」 ③ 受容的態度と共感的理解に基づく生徒指導の徹底 ④ アンケートや面談、観察からのいじめの早期発見・早期対応 ⑤ 心に響く道徳教育の充実 2-① 体力運動能力の向上と健康教育の推進 <ol style="list-style-type: none"> ② 生命尊重を基本とした安全指導、安全管理の徹底 ③ 災害に備えた知識と態度の育成（計画的な避難訓練の実施） 3-① 共通理解に基づく生徒指導の実施 <ol style="list-style-type: none"> ② 確実な情報共有と定期的な情報交換の機会の設定 ③ 機会をとらえた教育相談の充実と関係機関との連携

重点目標	開かれた学校づくりの推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度もコロナ禍の制約の多い中ではあったが、状況に応じて実施方法を工夫し、学校行事等を進めることができた。 ・東湖八坂神社の統人行事や総合的な学習、ミシンの先生や読み聞かせ、昔語りなどで地域人材を活用することができている。また、公民館、高校との連携事業等を進めている。 ・PTA活動、CSの活動もコロナ禍前に近い形で進めていくことができている。より多くの方々に、参加協力していただけるようにしていく必要がある。 ・学校報、HP等で学校行事やPTA活動、CSの活動の取組を発信し、学校教育への関心と理解を高めていくとともに、地域と学校との関係性を深めていく必要がある。
具体的な 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭・地域が一緒になって子どもを育てる意識の高揚 2 地域に学び地域のよさを発信するキャリア教育の充実 3 参加し協働することによるCSの理解の深化 <p style="text-align: right;">アンケート平均目標値：児童90%、保護者80% 保護者自己評価70%</p>
目標達成の ための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 無理のなく、より多くの保護者や地域の方が参加しやすい形の取組を進める。 2 地域の「人、もの、こと」の活用を意識した学習の展開、地域に根ざしたキャリア教育の展開。 3 校舎改築により、校舎使用に制限があることから、地域や関係機関に出向いて行う学習活動をより多く計画していく。 4 公民館や関係団体等の連携事業を進めていく。 5 推進委員会の3部会やPTA専門部と連携し事業を進める。また、PTA、CSそれぞれの活動に相互協力を促す。